

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成29年度対象)



栄町教育委員会

平成30年11月

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また、第2項では点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。

栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に提出するとともに、それを公表し説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
教 育 長	藤 ヶ 崎 功
教育長職務代理者	中 島 宣 行
委 員	大 久 保 雅 従
委 員	弘 海 千 鶴
委 員	石 川 京 子

目 次

- 1 点検・評価の対象 P 1
- 2 点検・評価の方法 P 1
- 3 点検・評価の結果 P 1
- 4 点検・評価（施策評価シート）
平成29年度栄町教育方針
基本方針（1）
創意と活力のある教育活動の中で，基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成，並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ，個性を活かすきめ細かな学校教育を推進します。 P 2～P 11

○学識経験者の意見 P 12～P 16
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 17～P 18

基本方針（2）
生涯学習とスポーツを通して，心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに，地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。 P 19～P 22

○学識経験者の意見 P 23～P 24
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 25

基本方針（3）
地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り，個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。 P 26～P 29

○学識経験者の意見 P 30
○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 31
- 5 本町教育行政が取組む方向について P 32

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成29年度の重点的な取組みとして実施した、「教育行政の充実」「学校教育環境の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の12の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、施策全体の取り組み状況（達成度）について

⎧	目標を達成	★★★
	目標をほぼ達成	★★
	目標に達成していない	★
	現時点で判定できない	—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名 中澤 一夫 (団体役員)

氏名 小島 洋子 (元学校長)

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

12施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成	★★★	・・・	8施策
目標をほぼ達成	★★	・・・	4施策
目標に達成していない	★	・・・	なし
現時点で判定できない	—	・・・	なし

4 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成、並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ、個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施策名】

- ・教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
 - ・学校教育環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - ・特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～P 6
 - ・きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7～P 8
 - ・学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9～P 10
 - ・学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11
- 学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12～P 16
- 学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・・ P 17～P 18



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		教育行政の充実					
現状と課題		<p>教育行政の大綱や教育の条件整備などに関して町長と教育委員会が協議・調整を行う「総合教育会議」が設置されており、町長が招集し、大綱の策定、教育条件の整備等重点に講ずべき施策、緊急の講ずべき措置について町長と教育委員会が協議・調整を行うこととしている。町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していきます。</p> <p>また、教育委員会内の情報の共有化、意識の共有化等風通しの良さをより一層徹底して、教育環境の改善につなげていきます。</p>					
目指す成果		<p>教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関が連携し円滑な教育行政が行われている。また、栄町教育振興基本計画にもあるように、家庭・学校・地域を連携し、それぞれの役割を果たしながら、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術文化などの各分野に積極的に参画することで、「豊かな心と生きがいを育み歴史と文化が息づくまち」をつくり「夢に向かって挑戦する栄っこ」をはぐくむことができる社会の実現を目指していく。</p>					
成果指標及び実績		指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		教育委員会所管の施策目標の達成度	42% (H25)	100%	100%	100%	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の達成度(施策全体の目標をほぼ達成した割合)
施策全体の達成度(★★★)		★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		1,869 千円 1,846 千円	
達成度の理由		<p>教育委員会所管の施策について、点検評価を実施した際の達成度の割合。教育委員会所管の施策11施策(教育行政の充実を除く)のうち、「目標を達成7施策」、「目標をほぼ達成4施策」であった。このことから教育委員会所管の施策全体の達成度は「目標をほぼ達成」とした。よって、全12施策中、「目標を達成8施策」、「目標達成をほぼ達成4施策」となる。</p>					
設定成果指標以外に現れた成果の説明		<p>総合的には、各施策の進捗状況や教育委員会会議、総合教育会議、教育委員による学校訪問等を実施し、円滑な教育行政を行えたことから、「目標を達成」と判断した。</p>					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		<p>町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちのバランスのとれた教育を推進していく。</p>					
住民との協働や他課の事業との連携		<p>教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けた、「栄町教育振興基本計画」(平成27年度～平成30年度)に基づき各種施策を推進していく。</p>					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 教育総務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会会議(定例会12回臨時会1回)を開催し、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。 ・総合教育会議は、充実した意義のある協議がされた。また、町長と教育委員会の情報共有を図った。 ・教育委員が学校を訪問することにより、学校の課題等を把握し教育委員会としての指導、支援の在り方を検討する機会とした。 ・教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。 ・教育委員会規則・訓令の制定、改廃 7件 ・予算等議決議案を町長に申し出ること 6件 ・任命・委嘱 10件 ・その他 15件 ・委員研修(千教連・印教連開催等) 6回 	<p>【取組への課題】</p> <p>町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しながら、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進していくことが必要。</p>	H27 決算 1,873 H28 決算 1,878
		<p>【課題を踏まえ今後の対応】</p> <p>社会の変化に対応するため、各施策の方向を確認しながら事業を実施し、情報および意識の共有化を徹底する。子どもたちに寄り添い、きめ細やかな教育行政が実施できるよう教育委員会会議等で常に協議・検討を行い教育環境の改善につなげる。</p>	H29 予算 1,869
			H29 決算 1,846
			H27 決算 1,873 H28 決算 1,878 H29 予算 1,869 H29 決算 1,846
合計			

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		学校教育環境の整備					
現状と課題		<p>学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、平成27年度中に屋内運動場の天井等落下防止対策工事(安食台小、竜角寺台小、栄中)を行う予定であったが、国の補正予算により12月に補助採択されたため、平成28年度繰越事業となり、3月末に工事が完了した。また、気象変動に伴う夏場の暑さ対策のため、小学校への空調機設置についても、国の補正予算により3月に補助採択され、平成28年度繰越事業により行い、工事が完了した。</p> <p>トイレの洋式化については、国の補正予算により10月に補助採択されたため、平成29年度繰越事業となり7月に完了した。今後の学校施設環境整備も、多額の工事費がかかってしまうため、国の補助制度を有効に活用し整備を行わなければならない。</p>					
目指す成果		児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安全で安心して学校生活が送れている。					
成果指標及び実績		指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		教育環境の整備・充実	空調機 1校 トイレ洋式 1校 (H26)	100%	100%	空調機 4校 トイレ洋式 4校	主な環境整備事業 ・空調機 4校 ・トイレ洋式 4校
施策全体の達成度 (★★★)		★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		107,674 千円	104,526 千円
達成度の理由		<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度中に、小学校4校の空調機設置を予定していたが、国の補正予算により補助採択されたことから、平成27年度内で工事が完了できなかったため、平成28年度繰越しにより行い、工事が完了した。また、同様に、屋内運動場の天井等落下防止対策工事(安食台小、竜角寺台小、栄中)も、国の補正予算により補助採択されたため、平成28年度繰越しにより行い工事が完了した。 学校管理運営事業では、各学校の維持管理を適正に行い、学校配当予算を適正に管理した。 トイレ洋式化の4校(安食小、布鎌小、竜角寺台小、栄中)においては、平成28年度改修予定であったが、国の補正予算での対応であったため、平成29年度繰越しにより行い、工事は平成29年7月に完了した。 総合的には、平成28年度に空調機設置工事完了、平成29年度トイレ洋式化工事が完了したことから、「目標を達成」とした。 					
設定成果指標以外に現れた成果の説明							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。このことにより、グラウンドの改修、体育館の非構造部材の耐震化を含め、児童生徒及び教職員がより良い教育環境で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう、各学校の実情等を踏まえ学校施設整備計画を策定する。					
住民との協働や他課の事業との連携		災害時の避難場所にもなっていることから一部の施設整備については、消防防災課と連携し、整備を推進していく。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学習環境整備事業	児童生徒及び教職員がより良い学校施設で学習することができ、安心して学校生活が送れるようトイレの洋式化及びグラウンドの改修工事を実施し、教育環境の改善を図った。 【主な工事等】 ・小学校トイレ洋式化等工事 32,209千円 ・中学校トイレ洋式化等工事 14,532千円 ・中学校グラウンド改修工事 19,386千円	【取組への課題】 学習環境の整備には多額の費用がかかることから、国の補助事業採択が重要になってくる。そのため、補助採択の状況により、事業進捗が左右されてしまうため、安定的な財源の確保が必要となる。	H27 決算 14,251	
				H28 決算 344,602
		【課題を踏まえ今後の対応】 国では、計画的な学習環境整備をするために、施設整備計画(長寿命化)を平成32年度までに作成することとしていることから、各学校の実情を踏まえた施設整備計画を策定する。	H29 予算 66,761	
				H29 決算 66,126
② 学校管理運営事業	より良い学校生活が送れるよう学校配当予算の適正な執行・管理を行い、学校の維持管理も適正に行った。 【主な管理費等】 ・各小中学校消防用設備保守点検委託 968千円 ・布鎌小学校 高木剪定委託 407千円 ・各小中学校光熱水費 14,947千円	【取組への課題】 各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする。	H27 決算 50,099	
				H28 決算 36,609
		【課題を踏まえ今後の対応】 より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。また、引き続き老朽化した機器の修理等を実施する。	H29 予算 40,913	
				H29 決算 38,400
合計			H27 決算 64,350	
			H28 決算 381,211	
			H29 予算 107,674	
			H29 決算 104,526	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		特色ある学校づくりの支援					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童生徒数の減少が予測される中、子どもたちへの教育の重要性が増している。学校運営や教育活動においても学校と地域が一体となって教育を推進していく必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	小中学校ごとに望ましい学校教育のあり方を追求し、保護者や地域住民が参加した「特色ある学校づくり」を推進している。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		学校評価における保護者アンケート	93.8% (H25)	95%	95%	95%	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		23,484 千円	22,009 千円
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・安食台小学校、栄中学校共に統合後の学校運営は円滑に行われている。また、スクールバスについても適正且つ安全に運行されており、児童生徒の通学時の安全は確保されている。 ・学校は学校評議員を通じて、地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践している。 以上のことから総合的に「目標を達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	統合により学校規模が適正になったことから、それぞれの特色を生かした学校づくりが更に進んでいる。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に係る児童生徒の心のケアの継続 ・各地域におけるふれあい推進員を含めたPTA組織・地域の活動力の維持 ・地域コミュニティースクールの導入について 					
住民との協働や他課の事業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部及びふれあい推進員等による放課後子ども教室等、学校と地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを大きくむ体制が確立している。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課、印旛土木事務所(国道・県道管理者)、成田警察署、印西警察署、地域ボランティア、各学校教員と共同して行った。 						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 通学安全対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行継続。 小中学校共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区:マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス 栄中学校 旧竜角寺台小学校区:大型バス マイクロバス 旧酒直小学校区:中型バス ・運行委託(栄町シルバー人材センター) 	【取組への課題】 ・スクールバスの安全運行を確保する。	H27 決算	14,003
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、栄町シルバー人材センターとの連絡調整を密にし、運行時間の調整、運行ルートの精査等を実施し、適正且つ安全な運行を行っていく。 特に突発的な事故等への対応や賠償等が発生した事案については、栄町シルバー人材センターとの間で合意を図る。 また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険個所の確認を行ない安全対策を講じていく。	H28 決算	13,157
		【取組への課題】 ・学校安全指導業務を通じて交通安全指導を行っているが、小中学生の交通事故や犯罪に巻き込まれる事例が発生しているため、指導を工夫していく必要がある。	H29 予算	13,284
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、必要な措置を講ずること、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。 ・交通安全指導の際、事故発生場所や発生形態についてより具体的に児童生徒に伝える。 ・実際に起きた事例や「いかのおすし」などのキーワードを活用して、児童生徒が身近な危険として認識し、安全な生活について考えるための防犯教室を実施する。	H29 決算	12,513
② 特色ある学校づくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援(ゲストティーチャーなど)の推進。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動の支援。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小学校で、交通安全教室の開催。防犯教室の開催。 ・学校運営の支援業務 小学校に学校用務員(日々雇用職員)の配置 	【取組への課題】 ・町内にある幼稚園、保育園、栄特別支援学校、小・中学校の連携を視野に入れた取り組みを推進していく必要がある。	H27 決算	9,124
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H28 決算	8,133
		【取組への課題】 ・「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、小中学生全員に「栄っこ宣言」が印刷されたクリアファイルを学校行事や集会活動の際に配付し啓発した。	H29 予算	10,091
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H29 決算	9,476
③ 「栄っこ宣言」推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、小中学生全員に「栄っこ宣言」が印刷されたクリアファイルを学校行事や集会活動の際に配付し啓発した。 	【取組への課題】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H27 決算	225
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H28 決算	81
		【取組への課題】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H29 予算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「栄っこ宣言」の唱和を全校で実施することで、具体的な行動へと発展させる。	H29 決算	0

④	栄っこ夢・元気プロジェクト推進事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	【取組への課題】	H27 決算	0
				H28 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】	H29 予算	
				H29 決算	
⑤	教職員等の適正配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務に関する業務 ・昇給内申等に関する業務 ・教職員人事評価に関する業務 ・産休・育休に関する業務 ・履歴事項に関する業務 ・学級編制に関する業務 ・教職員の適正配置 	【取組への課題】	H27 決算	12
				H28 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】	H29 予算	109
				H29 決算	20
⑥	小・中学校再編事業	事業終了	【取組への課題】	H27 決算	738
				H28 決算	0
				H29 予算	
				H29 決算	
合 計				H27 決算	24,102
				H28 決算	21,371
				H29 予算	23,484
				H29 決算	22,009

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		きめ細かな学校教育の推進					
現状と課題		<p>栄町では、「教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたちどうしが「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。</p> <p>自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。</p>					
施策の情報整理	目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応する、たくましく生きる児童生徒が育成されている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		千葉県標準学力検査の県平均との比較	小90% 中40% (H25)	小100% 中90%	小100% 中100%	小100% 中100%	
	施策全体の達成度 (★★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		31,157 千円 30,333 千円	
	達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プラン推進事業の「わくわくドラム」については、参加する児童生徒数も年々増加しており、基礎学力と学習習慣の定着が向上している。 ・中学生の海外派遣事業は、事前学習を充実させることで生徒の学習意欲を高めることができ、事後の報告会では事業の成果を十分に発揮した発表ができた。 ・町雇用の学校支援教員、スクールカウンセラーについては、概ね各小学校の要望に応じた配置ができており、教育支援センター事業も効果を上げている。 ・就学相談についても丁寧に面談を行い、成果を上げることができた。 ・中学校の学力検査においては、基礎学力の定着が図られ、目標値に近づくことができた。 					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	栄町学習道場(サタデーわくドラ、サマーわくドラ、ウインターわくドラ)の参加者が年々増加し、児童生徒の積極的な学力向上への意欲及び取り組みが見られる。					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のモラルアップに対する取組 ・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・特別支援教育に関するニーズの高まりときめ細かな対応 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり 						
住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉・子ども課、生涯学習課と行った。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学力向上プラン推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善推進業務 11月の学力パワーアップ総合月間に全校で実践活動を実施した。 ・栄町学力向上推進事業 学力スタンダードを活用した取組においては、児童生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多く見られた。 ・栄町学習道場(わくわくドラム)事業 ①7月～8月の夏季休業中、「基礎学力充実コース(14回)」、12月の冬季休業中、「基礎学力充実コース(2回)」を実施し、長期休業中の児童生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。 ②年間を通して、「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催し(年間全18回)、基礎基本の充実を図ることができた。 	【取組への課題】 ・学年、学校により、学力テストの県平均を上回っていない教科がある。 ・小中連携による実効性のある授業改善研修を一層推進する。 ・学習指導要領等の改定に伴い、学力スタンダードも改定していく必要がある。	H27 決算	1,315
		H28 決算	1,100	
		H29 予算	1,275	
		H29 決算	1,242	
② 国際化に対応した人間教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校外国語教育推進業務 小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、小学校外国語活動及び中学校英語指導の支援を行った。 ・栄町元気事業支援日本食研基金中学生海外派遣事業 国際理解教育の推進のため、町内の中学生(12名)をオーストラリア・メルボルン州へ派遣し、現地校での語学研修とホームステイ体験を行った。 ・英語検定助成事業 中学校卒業時に英検3級以上の英語力を身に付けていることを目標とし、年間1回受験料の全額助成を行った。 	【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び英語の早期実施を見据え、小学校教職員研修の充実と外国人指導員の配置が急務である。 ・国際理解教育を更に推進するため海外派遣事業に参加した中学生が、現地の方と継続して交流が持てるような工夫が必要となる。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に向け、国の設定する目標「中学3年生の半数が英検3級相当の英語力を身につける」の達成に向けて、具体的な対策を講じる必要がある。	H27 決算	7,048
		H28 決算	9,762	
		H29 予算	10,553	
		H29 決算	10,371	

③ 個に応じた授業改善推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 指導法改善推進業務 小学校4校に学校支援教員を配置した。 特別支援教育整備業務 小学校3校、中学校1校に介助員を配置した。 教育支援委員会運営業務 教育支援委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。 国立政策研究所よりアクティブラーニングによる算数の研究指定を受けた、竜角寺台小学校への支援を行った。 	【取組への課題】 ・年々特別な支援を必要とする児童生徒が増えていることから、就学相談・就学指導を適切に行うと共に、介助員の増員についても検討する。 ・インクルーシブ教育システム構築のための研修を推進し、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業づくりをめざす。 ・町内教職員の指導力向上のため、小・小、小・中連携を拡大していく。	H27 決算	12,725
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、相談業務、就学指導について適切に対応していく。	H28 決算	13,232
		また、学校、教育委員会の役割を明確化するとともに、特別支援学校も含めた3者間の連携を密にし、児童生徒の状況に応じた就学支援を行っていく。 ・小中体連の指定を受けている安食台小学校及び千葉県からの指定を受けている竜角寺台小学校への支援・指導を実施する。	H29 予算	13,392
		H29 決算	12,933	
④ 豊かな心・健やかな体づくり教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 教育支援センター運営事業 年間30日以上欠席の児童生徒は小学校12人、中学校18人あり、「ゆうがく館」に小学生2人、中学生4人が通所した。「ゆうがく館」には、学校適応専門官を配置し、不登校児童生徒への指導に当たる他、家庭訪問の実施、保護者面談等による連携を通して、高等学校からの学校生活への復帰と生活習慣の確立へとつなげた。また、指導員を配置し、不登校児童生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。 生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を5回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 体力向上・健康増進教育推進業務 毎年、新体力テストを実施し、食育の推進を行った。 学校図書館教育推進業務 学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。 	【取組への課題】 ・図書館司書として継続して勤務できる専門性の高い人材確保が課題である。 ・不登校対策として学校とゆうがく館との情報共有や連携が課題である。 ・特別支援教育に対する専門性の向上及び保護者との連携を活かした教育実践が課題である。	H27 決算	6,297
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・SC小学校1校に人配置を継続する。 ・アウトリーチ型の長欠児童生徒対策を検討する。 ・不登校対策にかかる専門員の配置について検討する。 ・ゆうがく館の土曜日開館による週5開館体制を検討する。	H28 決算	5,253
		H29 予算	5,362	
		H29 決算	5,267	
⑤ 学校教育を担う人材の育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催を支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金の補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。 	【取組への課題】 ・教職員の不祥事を根絶するための研修会の在り方について、当事者意識が持てるよう考慮する必要がある。	H27 決算	539
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・OJTや研修を充実させ、教職員の資質向上を図る。 ・毎月の教頭会議においてモラルアップ研修を取り入れると共に、指導法の研修を行うことで職員への指導力を高めていく。	H28 決算	566
		H29 予算	575	
		H29 決算	520	
合 計			H27 決算	27,924
			H28 決算	29,913
			H29 予算	31,157
			H29 決算	30,333

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		学習環境の充実					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするための学習環境の整備が必要である。					
目指す成果		児童生徒は生活面においては必要な援助が受けられ、学習面においては十分な教材を活用し、授業を受けることができている。また、児童生徒及び教職員は健康面においても安心して学校生活を送れるようになっている。					
成果指標及び実績		指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		児童生徒の学校に対する評価	91% (H25)	94%	95%	95%	児童生徒が学校生活に満足している割合
施策全体の達成度 (★★★)		★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		43,769 千円	41,077 千円
達成度の理由		・教科書給与業務については過不足なく給与することができ、補助金交付業務についても適正に交付することができた。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金、私立幼稚園保育料等助成金についても適正に執行することができた。両補助金により多子世帯の保育料は無料となり、保護者負担の軽減について十分な効果をあげている。 ・学校保健事業については、定期健康診断、生活習慣病予防健診、精密検査等を通じ、児童生徒及び教職員の身体的な健康管理を行うと共に、教職員についてはメンタルヘルスによる不調を未然に防ぐため、ストレスチェックを実施した。 ・就学支援事業については、支援をのぞむ保護者に対し、公平公正な調査と必要な支援をおこなった。 ・学齢簿の管理、区域外就学等について適正に事務をおこなった。 以上のことから、昨年度比4ポイントの減ではあるが、施策全体としては「目標を達成」と判断した。					
設定成果指標以外に現れた成果の説明		・中学校の部活動においては生徒の活躍が期待される。 冷暖房完備等、環境の整備やきめ細かな生徒指導・安全指導による成果が出ていると思われる。					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		・食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応。					
住民との協働や他課の事業との連携		・健康介護課(食育・歯科保健指導) ・教育総務課(施設管理)					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 学習環境充実事業	・教科書給与業務 教科書の給与業務を適切に行った。 ・補助金交付業務 生徒ヘルメット補助金 栄中学校部活動補助金 ・学校教育振興・運営業務 各学校へ予算を配当し適切な執行管理を行った。	【取組への課題】 ・毎年度学校配当予算削減を余儀なくされるなか、学校配当予算の適切な執行について学校と連携を図っていく必要がある。	H27 決算	17,072
			H28 決算	12,445
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・消耗品等の適正な支出について、学校内で調整を図ることを推進すると共に、学校事務職員と教育委員会が連絡を密にし、学校事務共同実施を活用しながら適正な執行を行っていく。また、町に研究指定校制度を設置し必要な予算を確保していく。	H29 予算	7,462
			H29 決算	7,380
② 私立幼稚園就園奨励費補助事業	・私立幼稚園就園奨励費補助業務 私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度(世帯構成と町民税所得割課税を確認)に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。	【取組への課題】 ・国の補助限度額が毎年度段階的に拡充されるため、町の規則改正も必要になり、同時に支出も増額になる。	H27 決算	29,657
			H28 決算	29,965
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・国の基準の改正を踏まえ、町の規則を改正し、財政部局と調整しながら適正に事業を実施していく。	H29 予算	20,294
			H29 決算	20,087
③ 私立幼稚園保育料等助成事業	・私立幼稚園保育料等補助業務 多子世帯の経済的負担の軽減として、私立幼稚園に通園している、町内在住の第3子以降の園児の保育料を無料にするため、保育料等から私立幼稚園就園奨励費補助金を差し引いた残りの金額を全額助成した。	【取組への課題】 ・特になし	H27 決算	3,002
			H28 決算	2,292
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・引き続き助成事業を実施する。	H29 予算	2,197
			H29 決算	1,723

④ 学校保健衛生事業	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断及び生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・脊柱側弯症検診・心電図検査・結核検診・尿検査・運動器検診を実施した。 教職員についてはストレスチェックを実施した。 ・中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防健診を行った。 ・学校保健に関する業務 米町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 ・学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。 夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 ・災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。 	【取組への課題】 ・教職員の健診にストレスチェックの結果をどのようにフィードバックしていくか。	H27 決算	6,767
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・ストレスチェックの結果が思わしくない人は改善に向かえるよう、また心に不安を抱える人は払拭できるよう、適切な事後指導を行う。	H28 決算	6,962
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学説明会の際の保護者への周知。 ・要保護及び準要保護児童生徒認定要領及び認定基準等の学校への周知を徹底し、保護者間、学校間の認識が等しくなるようにする。 ・民生委員にも総会等の機会を活用し、準要保護の制度について周知を図っていく。 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H29 予算	7,115
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H29 決算	6,540
⑤ 就学支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 ・特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。 	【取組への課題】 ・就学援助に対する認識が保護者間、学校間で差がある場合があることから就学援助について周知を徹底させる必要がある。 また、新入学児童生徒に対し、入学前に新入学用品の購入費用を支給する入学前準備金支給制度を創設する市町が増えている。	H27 決算	5,606
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H28 決算	4,786
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H29 予算	6,072
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・入学前準備金の支給については、近隣市町の動向を確認し、導入に向けて検討する。	H29 決算	4,761
⑥ 就学事務の適正化推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。 小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。 就学に関わる事務を適切に行った。 ・学籍管理・学校の就学に関する業務 ・学齢簿に関する業務 就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。 また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。 児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 ・各種調査研究・統計に関する業務 	【取組への課題】 ・特になし	H27 決算	585
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・適正に事務を遂行する。	H28 決算	624
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・適正に事務を遂行する。	H29 予算	629
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・適正に事務を遂行する。	H29 決算	586
⑦ 子育て世帯家庭教育支援事業	平成28年度より生涯学習課へ事務移管	【取組への課題】	H27 決算	1,081
		【課題を踏まえ今後の対応】	H28 決算	
		【課題を踏まえ今後の対応】	H29 予算	
		【課題を踏まえ今後の対応】	H29 決算	
合 計			H27 決算	63,770
			H28 決算	57,074
			H29 予算	43,769
			H29 決算	41,077

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学校給食の充実					
現状と課題		近年「食の安全性」に関して危惧される事案が多く見受けられる。このような状況下、町は児童生徒に安心・安全な給食を提供するため、より一層安全衛生基準に基づいた取り組みを講じていく必要がある。 また、給食をとおして食の重要性を児童生徒が理解し、その結果、給食残菜の軽減に繋がるよう食育に関する指導体制が求められている。					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康の保持増進と望ましい食習慣を養うことから学校生活における食育の充実を図る。					
	成果指標及び実績		現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		児童生徒の給食を食べた量の割合(%)	85% (H25)	90%	90%	90%	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		147,559 千円	
		達成度の理由	児童生徒の給食における摂取状況を主食、主菜、副菜、牛乳、デザートに分類しそれぞれの残菜傾向を踏まえバランスよく食事がとれているかを判断する。その結果全体量のほぼ9割が摂取できている状況であることから、個々に必要な栄養素は適切に摂取されているものと判断する。また、昨年同様、中学生の喫食率が小学生より低い傾向にあるため、食育等を通じて更に「食に対する意識」の向上を高めていく必要がある。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	総合的には、施設機能の適切な維持管理及び食材の安全性を確保しながら、日々安全で安心な給食を児童生徒に供給することができていることから「目標を達成」と判断した。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	○施設維持管理事業:経年劣化による調理場内設備等の機能低下が懸念されるため、適正な調理機器の更新及び修繕を計画的に進めていく。 ○給食事業:元氣さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子どもたちが自らの食について考え、選択する判断力を身につけ生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことが必要である。 また、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている。					
住民との協働や他課の事業との連携	・産業課及びJAとの連携による地元産産物の利用の促進 ・福祉課と連携し給食費の適正な徴収を図る(児童手当からの徴収) ・町のごみ減量化計画との関連性						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 給食運営事業	○安全衛生基準に基づいた食材の調達及び調理、配送を行い給食の安定供給を確保する。 提供日:194日 食数:約1,300食/日 ○栄養指導業務 ・栄養教諭による各小中学校での食に関する授業を実施。(小中学校各4~6回) ・各学校へ給食に関する情報チラシの配布及び完食したクラスに対し「完食賞」の実施を行う。	【取組への課題】 ・栄養教諭による食育を通じた栄養指導及び各小中学校の担当教諭と連携しながら喫食率の向上及び給食残菜の減量化に取り組んでおりH29においては概ね目標値に達した。しかしながら中学生の喫食率は依然低い傾向にある。	H27 決算	137,954
			H28 決算	133,425
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・昨年度比2ポイント上昇し全体では目標値に達しているが、中学生の喫食率を高めるため各生徒が「食に関する意識の向上」に繋がるような食育指導等の取り組みを実施する必要がある。	H29 予算	136,286
			H29 決算	134,710
② 施設維持管理事業	○給食の安定した供給を図る為、調理場施設の機能維持管理を強化する。	【取組への課題】 ・施設内における配管設備及び調理機器に対する修繕箇所が、年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安定供給を損なうことのないよう適切な維持管理に努めていく必要がある。	H27 決算	5,383
			H28 決算	5,332
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設の改修計画及び厨房機器の更新計画を作成する。	H29 予算	11,078
			H29 決算	10,776
③ 給食費徴収事務事業	○学校及び町の関係課と連携し、滞納者との納付相談等を積極的に行い徴収に努めた。 ○収納対策の強化として長期滞納者に対する法的措置の周知を行う。 ○収納率 (現年度)98.81%昨年度比:0.3ポイント上昇 (過年度分)6.99%昨年度比:2.0ポイント下降	【取組への課題】 ・学校給食費の現年度分収納率はH28と比較し向上したが、過年度分の収納率は下がっているため今後更なる収納対策の強化が必要である。	H27 決算	107
			H28 決算	110
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・栄町学校給食費徴収事務取扱要綱に基づき関係課及び学校と連携し適正な賦課徴収を行う。過年度分長期未納者に対して法的措置を視野に入れた手続き及び納付相談を実施する。	H29 予算	195
			H29 決算	113
合 計			H27 決算	143,444
			H28 決算	138,867
			H29 予算	147,559
			H29 決算	145,599

学識経験者の意見（基本方針（1）について）

【施策名：教育行政の充実】

- ・平成28年度の点検・評価報告書の外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるものについての意見の中で、「教育の政治的中立性という文言が平成27年度には記載がなく、平成28年度に記載されたのは、教育の中立性が侵されている危険があるということですか」という質問が出ていましたが、「そういうことではありません」という回答をいただきました。現状と課題の中では、町長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図りながら、子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進するとあるとおり、バランスのとれた教育を推進していると実感しています。
- ・教育委員が学校訪問を行い、学校でどのようなことが行われているのかなどの情報と意識の共有化をしていると思いますので、その辺りは今以上に徹底をお願いしたいと思います。
- ・先生方のパソコンについては、1人が1台を所有し、例えば、児童生徒の評価の部分の文言が町内で統一されて、学校でも全てのパソコンで閲覧できるシステムの構築は、現在どのようになっていますか。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・厳しい予算の中で、計画的に天井等の落下防止対策、空調機の設置それからトイレの洋式化をしていただいたのは、子どもたちにとっても過ごしやすく安心して教育が受けられるということでありありがとうございました。今後も、国の補助制度などを有効に活用していただいて、体育館の非構造部材の耐震化ということが書いてありましたので、これからも引き続きよろしくお願いします。
- ・他課の事業との連携の中で、消防防災課と連携し整備を推進していくと書いてありました。そういう部署と連携を図っていただけているので、達成度は、★3つでいいと思います。
- ・高木剪定については、学校の職員が自分たちで切るということはなかなかできないことなので、造園屋さんに剪定をしていただいています。計画的に剪定をされていますので、引き続き予算措置をお願いしたいと思います。樹木も古くなってくると大きくなるので心配です。この前も台風や地震で木が倒れたことがありましたので、よろしくお願いします。
- ・布鎌小学校の勤労奉仕活動で伐採された、処分が困難な樹木などの処分方法について教えてほしい。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・施策全体の達成度について、昨年は星2つのところ、とてもよく行っているということで、★3つでも良いのではないかという意見を出ささせていただきました。今年も去年の88%から91%に保護者のアンケートであがっています。保護者からよくやってくださっているという評価を受けているので★3つで良いと思います。

- ・通学箇所の危険箇所の確認は、印旛土木事務所、成田警察署、印西警察署、地域ボランティアの方、教員も一緒ということです。この確認は本当にありがたいことだと思います。引き続きよろしくお願いします。
- ・スクールバスの安全運行は統合されてからも、きちっと運行してくださっているということでありありがたいことです。バスの運行は、シルバー人材センターの方々が、自信をもって運行してくださっていると思います。児童生徒の送迎になりますので、これからも安全を心がけていただけるとありがたいです。学校の朝練で、早い運行もされていると聞いています。そういう状況にも随時工夫して運行されています。お礼申し上げます。
- ・地域住民による支援事業について、放課後子ども教室、読み聞かせも各学校で非常に増えてきています。とても良いことだと思います。ボランティアの方々の登録数も多いと思います。ただ、そこに参加できないことがありますので、登録したら行くことをボランティアは、考えていかななくてはいけないと思いますが、参加できるように工夫して事業を組んでくださっているのはとてもありがたいと思います。ボランティアでいきますと、子どもたちも生き生きと過ごしています。例えば1人親家庭の子どもたちは、放課後子ども教室で楽しく過ごしているということで、非常に心が明るくなるということを親から聞いています。続けていただけるとありがたいです。
- ・学校安全指導業務について、交通安全指導教室をやってくださいしています。防犯教室も行っているということですので、ここに防犯教室の文言を入れていただいたほうが良いと思います。これは平成29年度のものですけれども、教育長も民生委員の広報に「いかのおすし」ということで寄稿いただいております。防犯をととてもよくやっているということで、ぜひここに防犯教室を記載していただけるとありがたいです。
- ・栄っこ宣言について、とても良いと思います。今年の夏休みのわくわくドラムの時に、小学校1年生も暗記していました。朝、前に出て栄っこ宣言をリーダーが言ってみんなが言います。1年生がリーダーをしていた時に、何も見ずに言うことができました。同学年の子どもたちや2年生も一緒に唱和していて、本当に浸透していると思いました。あとは、言葉の意味をきちんと理解させていただきたいと思いますので、その取り組みは、担任の先生に伝えていただけるとありがたいです。
- ・地域コミュニティースクールについて、現在のところ読み聞かせや放課後ふれあい教室など地域の特色の活用という面から導入するかどうかということだと思います。今まで、進んできているものを拡充していくというような方向のほうが早く、効果もあるのではないか、そのあたりも考慮していただければと思います。色々なことができる地域の方の人材を発掘していくということも大事だと思います。
- ・教職員の適正配置のところで、産休、育休に関しては、北総教育事務所から適切に配置されたということ、安食小学校の英語教諭にあっても配置ができたということで大変よかったです。今、情勢が厳しくて配置する人がいないという話も聞いています。突然、教員が心的なものから病気になった時に、北総教育事務所から配置ができない場合は、町で配置していただくしかないので大変ご苦労があると思います。この時代で、先生方も生徒指導など色々なことで精神的に心の病気になっている方が増えていると思います。そういう状況になった時に、町で人材を探すことは大変だと思いますが、子どもたちのために、ぜひ探していただければと思いますので、今後ともよろしくお願いします。
- ・地域コミュニティースクールの導入とありますが、どういう内容のものなのか教えてください。

- ・各学校と地域の連携については、学校事業の推進は、現実、職員だけでなくPTAなどの保護者の役割が大きいものがあります。その他、地域の有力な人材協力を求められるように開かれた学校として地域との連携を更に進めてほしいと思います。地域の持っている力を学校で活用していくことで、地域の方も学校に関心を持ってくれることにつながっていくのではないかと思います。

【施策名：きめ細かな学校教育の推進】

- ・県の標準学力テストの平均との比較で★1つになっていますが、きめ細かな学校教育の推進ということでは、とてもよくやっていると思います。ここの指標からいくと★1つかもしれませんが、行っていることとしては、ほぼ達成でいいと思います。特に、栄町では、特別支援学級の介助員や普通学級の支援員を入れていただいているので、非常に個にあった、きめ細かな指導をしてくださっています。わくわくドラムでも、本当に子どもたちが意欲的に取り組んでいると思います。これは目標を達成していないのではなく、きめ細かに推進しているように思います。今後も、きめ細かに学力向上につなげていただければ良いなと思います。
- ・わくわくドラムについて、子どもたちはよく来て、教育委員会も見に来てくださっています。わくわくドラムも段々定着してきたところで、子どもたちにより学力をつけるために、どのような内容で行っていくのかなどの説明会をボランティアの方に行っていたらと思います。わくわくドラムは、ボランティアの方と学校によっては先生方も協力して下さるところがあると思います。ただ、学校によっては、先生方の意識が違うところもあるのかなと思ったりしますので、そういった説明会をしていただくことと、わくわくドラムが終わったあとは各学校ボランティアの代表などで反省会を設け、次につないでいくことで、わくわくドラムがより充実するのではないかと思います。よろしくをお願いします。
- ・わくわくドラムのボランティアを集めるということは、難しいところだと思います。ぜひ確保をしていただければと思います。
- ・月1回要保護・準要保護に関する情報交換を福祉子ども課と生涯学習課で行っているということで、とても良いことだと思います。そのように情報交換していただくことで、不登校もなくなります。また、その家庭にどういった支援をしていくのかということもあり、民生委員も関係してくると思います。そういうことから情報交換をしてよりよく子どもたちが育っていくことを願っています。
- ・国際化に対応した人間教育事業について、栄町は、英検について年間1回の受検料の全額助成をしてくださっているので、子どもたちも非常にやる気をもっていると思います。今後も引き続きよろしくをお願いします。また、2020年度から新学習指導要領が実施され、小学校は担任が主となって英語活動をやっていくと思います。そこにALT（外国語指導助手）もつけてくださることなので、今後、担任に対する研修にも力を入れていただければと思います。
- ・特別支援教育について、介助員さん、支援員さんも多く入れてくださっているのでありがたいです。先生方は、大学の時や教員になってからも発達障害については研修をしているところですが、自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害）それからADHD（注意欠陥多動性障害）、そういう障害がどういうものか、それをもっているお子さんでも一人一人違います。保護者から、もう少し自分の子どもについてわかってほしいということを言われます。そういった児童理解も校内でケース会議をもたれていると思

- ますが、その他に先生方の研修などを行って理解していただければと思います。
- ・就学指導について、特別支援学校と連携ということで、コーディネーターの方もきて就学指導委員会を行ってくださっています。就学指導も親と面談しながら進めていると思います。親は、特別支援学級や支援学校に通うとなると、なかなか理解ができないこともあると思います。栄町は、昨年も丁寧に就学指導をしていただいているということで、これからも丁寧な就学指導を行っていただきたいと思います。
 - ・不登校について、適応専門官が学校とのパイプ役になり、不登校の子が中学校や小学校に行こうという気持ちになった時に、学校での受入体制を、このように行うからこのように受入れてくださいということをやっています。非常に子どもたちは行きやすいと思います。不登校になっているお子さんは、色々な課題を抱えています。例えば、修学旅行には行きましたが次の日、学校へ行けるかという行けない現状があります。そういったところで、適応専門官が一生懸命子どもにも保護者にも色々話を聞いて学校とつないでくださっています。不登校のお子さんが学校へ行くことは、50倍、100倍のエネルギーを使って学校へ行くわけです。そこで、学校側が「よく来たね」「頑張ったね」と言ってくれる、このつながりは本当にありがたいと思います。
 - ・ゆうがく館の指導員について、今後、不登校がかなり増えてきた場合、指導員が1人と大変だと思います。予算の関係もあるので、教育委員会だけではできないことだと思います。不登校のお子さんが、学校に行けることが一番良いことですが、今後は指導員を1人増やすということも視野に入れて考えていただけると良いと思います。
 - ・ゆうがく館の開館日について、月曜日から学校と同じ状態で開いていただきたい。ただ、お子さんによっては8時から登校できるわけではありませんが、家にいるよりはゆうがく館に来れるということが大切だと思います。中学校、小学校の担任の先生や管理職の方は、ゆうがく館に見にきてくださっていると思いますが、やはり見にきていただきたいです。お母さん方は、子どもが一生懸命エネルギーを出して学校へ行き、先生が「おはようございます」も言ってくれなかったときは悲しい思いをします。忙しいと思いますが、1回でも見に来てくれると子どもたちの励みにもなると聞いているので、先生方にお話していただくと大変ありがたいと思います。
 - ・教職員支援業務について、栄町はモラルアップ研修を行っていますが、栄町から不祥事を出さないということと、若い先生方の規範意識や社会性、そういったところも含めての指導をよろしくお願いします。
 - ・放課後子ども教室を見ると、子どもたちは、機械的な算数の計算は進んで正確にやっている子は多いですが、応用問題など考える部分が苦手ですのでその中でその部分を進めようと考えています。アクティブラーニング(※1)を進めているというお話を伺って、この辺りはとても関連するところです。進めていただくとありがたいと思います。
 - ・わくわくドラムの講師の方々は、非常に大変だと思いますが、一生懸命やっていただいで学力の向上にはつながっているのではないかと思います。栄町は人口・児童も減少していますが、例えば、栄町に住むと学力が上がるというようなことを町外に発信することができたら人口増にもつながるのではないかと思います。ぜひ力を入れていただきたいと思います。

【施策名：学習環境の充実】

- ・施策の指標が児童生徒の学校に対する評価でできているので、学校が楽しいとか友だち関係のことなどで子どもたちは回答すると思います。しかし、事業の内容を見ると、日

本スポーツセンターの掛け金の納付と給付や学齢簿についても記載漏れがなくきちんと処理されているので、昨年度と同様に目標は達成できているので★3つで良いと思います。日本スポーツ振興センターの処理も学校側の養護教諭さんが変わったりすると漏れてしまうことがあるので、引き続き漏れ落ちのないようにお願いします。学齢簿についても同様に、記載漏れがあると学校にあがっていない子や住民基本台帳にもいないということになると大変なことになりますので、引き続き記載漏れのないようにお願いします。

- ・要保護、準要保護については、民生委員会議でも説明をいただいておりますが、民生委員さんの中には、要保護、準要保護について理解されていない方がいると思います。今は、準要保護についての認定資料は、学校長の所見だけで認定されるようになっていて、昔のように民生委員の所見はないです。ただ、学校長は、子どもについてわからないことがあれば、民生委員さんに聞くということもあります。今後も民生委員会議などで要保護や準要保護についての説明をよろしくお願いします。
- ・学校衛生事業について、教職員がストレスチェックを受けて心的要素がある教職員は、北総栄病院へ受診するということが大変良いと思います。教職員が自己肯定感を高め、明るく児童生徒に指導することがとても大切なことだからです。ストレスチェックの結果は、今までどおりに各学校の管理者も把握して事後の指導をしていただければ良いと思います。

【施策名：学校給食の充実】

- ・給食費の未納が1. 2%ということですが、未納の方というのは、生活困窮者の方ですか。
- ・栄町は未納世帯に対して法的措置を実施することはありますか。未納者への収納対策として、裁判所を通じた支払督促などの法的措置を行ったほうが良いと思います。
- ・子どもたちに美味しい給食を作っていただいております。今年の報告では、栄養教諭さんが、各学校や家庭教育学級で食の指導をしてくださっていることで、食べていなかった食材を家庭で作るようになったということが報告されておりました。今後も、家庭教育学級でやっていただきたいと思っております。例えば、給食センターへお母さん方が作っているところを見に行くことができればもう少し意識も高まるかなと思っております。見に行くことで、衛生管理や食材について気を付けていることを理解してくれますし、栄養教諭さんからも子どもの栄養について話があります。保護者の意識が変わってくると子どもたちも食べるようになってくるという事例もあるので、ご検討いただければと思います。
- ・完食賞について、非常に良いことだと思いますが、担任によっては、あなたが食べないから完食賞がとれなくなるというようなことが往々にしてあります。いじめや不登校につながることもあるので、その辺りは気を付けていただければと思います。よろしくお願いします。
- ・給食は年に1回ほど高齢者の方などといただく機会があります。味付けがよくておいしく食べられますので、それを継続していただけたら良いと思います。

【用語解説】

(※1) アクティブラーニング

話題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より

【施策名：教育行政の充実】

- ・今回は平成29年度の点検・評価のため記載していませんが、平成31年度に向けて教育のICT化の推進（情報通信技術）、校務支援システムの導入を進めています。

【施策名：学校教育環境の整備】

- ・各学校の整備改修については、今後も社会情勢等を踏まえ、計画的に改修を行っていきます。また、平成31年度より栄町第5次総合計画が始まります。改修計画をしっかりと立て学校を整備していきたいと考えています。
- ・学校の環境整備作業でた樹木などの処分については、各学校PTAの皆さまのご協力のもと各学校にお願いしているところですが、近年、処分方法（野焼きの禁止など）が限られてきていることから、大きな樹木など処分が困難なものについては、今後考えていきたいと思えます。

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・地域コミュニティスクールは、学校の機関としての運営協議会を設け、PTA、地域、学校が連携して学校の運営に携わっていくというもので文部科学省が示した制度です。地域と密着した学校づくりを進めるということですが、栄町に導入したときに現在ある地域の組織と重なる部分があります。各学校でそれぞれの地域の方に入っていただいて、安全の見守り、放課後子ども教室、読み聞かせなど活動しているところがありますが、文部科学省が示している、地域コミュニティスクールとなると、地域の方が教師の人事権までの言及することもできることから、そういう意味でも研究していかなければと思います。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・ゆうがく館には、不定期ではありますが、学年主任と校長先生、担任の先生が昨年から来ています。子どもとの人間関係もスムーズになってきていると報告を受けています。
- ・ゆうがく館の指導員は1名、相談員1名（火曜日、金曜日）が配置されていましたが、平成29年度より学校適応専門官（水曜日、木曜日、金曜日）が入っており、ゆうがく館を利用する児童生徒や不登校・登校しぶり傾向にある児童生徒及びその保護者への相談対応等を行っていきます。

【施策名：学習環境の充実】

- ・民生委員さんへの要保護、準要保護の説明については、来年、2月に実施する民生児童委員研修の際に要望がありましたので、学校教育課で対応させていただきます。

【施策名：学校給食の充実】

- ・給食費の未納者については、生活困窮以外の理由で滞納される方もいます。また、給食費も義務教育なので支払いはしないという考えの方もいます。なお、要保護のお子さんは、生活保護費から給食費まで含めて支給され、準要保護のお子さんは、町の就学援助

費から給食費が支給されています。未納者への法的措置の実施については、まだ事例としてはありませんが、今後、未納者からの理解が得られない場合は、実施してまいります。

基本方針（2）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施策名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 0
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 1
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 2

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 3～P 2 4

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・ P 2 5



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		生涯学習環境の充実					
現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性をはぐくむことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 ・子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、地域との絆や社会性をはぐくむための機会が少なくなっている。 ・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。 					
目指す成果		生涯にわたり学習することができる環境が整備され、町民は、学習活動の成果を様々な方法で場を活かしながら、地域の課題解決や活性化につなげている。					
成果指標及び実績		指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
生涯学習ボランティア登録者数			684人 (H25)	732人	746人	760人	自主的に活動しているボランティアの人数(学習アドバイザー/図書ボランティア/ふれあい推進委員/子ども110番協力家庭/青少年相談員、PTA連絡協議会、社会教育委員12人、通学合宿ボランティア)
施策全体の達成度(★★★)		★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		2,764 千円	2,568 千円
達成度の理由		<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に活動しているボランティアの人数は学習アドバイザー20人、図書ボランティア18人、ふれあい推進委員154人、子ども110番協力家庭485人、青少年相談員30人、PTA連絡協議会8人、社会教育委員12人、通学合宿ボランティア30人の計757人であった。 ・ふれあい推進委員、青少年相談員などの青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 ・放課後ふれあい教室の参加児童の満足度は高い。 以上の事から、「目標を達成」と判断した。 					
設定成果指標以外に現れた成果の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員、青少年相談員などの青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 ・放課後ふれあい教室(布鎌小・安食台小)の児童登録率は両校とも約25%。アンケートから参加児童の教室に対する満足度は高い。 ・いきいき塾さかえでは、ふれあいプラザさかえ利用サークルを講師として活用し、小学生対象の新規講座を実施し好評であったが、一方では内容が固定化し参加人数が低調で見直しが必要が出てきている講座もある。 ・子ども110番の登録内容が古く、実態調査を実施したが全ての実態把握が未完了、見直し作業を継続して実施している。 ・ドラム自然楽校や通学合宿を充実させるためには、地域の支援者の協力が必須。支援者の確保が課題。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用 ・家庭や地域と連携した安全安心の確保 ・子どもたちの他校や異学年との交流機会の提供と活動支援 ・多様な学習情報の提供 					
住民との協働や他課の事業との連携		当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができない。各小学校区で組織している「ふれあい推進委員会」では、学校・PTAとの協力によるサマーキャンプなどのふれあい交流事業が実施されている。また、「放課後ふれあい教室」と「ドラム自然楽校」では、ふれあい推進委員会や青少年関係団体、さらには地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。通学合宿ではボランティアの協力により、団体生活の中で炊事や日常生活の基本を自分自身で行いながら学校に通うことで、社会性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力をはぐくんだ。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 生涯学習活動支援事業	団塊の世代の活動支援など社会的な課題に対応した各種講座と、長期休業期間中におけるキッズ教室を開催した。 ○いきいき塾さかえ講座(26回開催:延べ参加者390人) ・パソコン教室(9回、延べ参加者38名) ・木工教室(4回、延べ参加者44名) ・国際理解講座(参加者16名) ・浴衣着付け教室(参加者12名) ・栄町歴史講座(延べ参加者143名) ・キッズ教室(陶芸、英語でクッキング、色鉛筆画、書初め、茶道)(計9回、延べ参加者137名)	【取組への課題】 ・パソコン教室等の内容がマンネリ化し、参加者数が低調な講座も出ている。事業の数が多いため、ニーズにあった新しい事業と共に既存事業の見直し、魅力ある講座の企画と情報の積極的な発信を行う必要がある。	H27 決算	261
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・好評な講座等、魅力ある講座を開催し、受講者満足度の向上を図る。また、平成30年度の新規事業として、ふれあいプラザさかえ利用サークルを講師として活用し、切り絵教室を開催する。	H29 予算	0
			H29 決算	0
② 地域教育力向上事業	青少年の健全育成のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○地域ふれあい交流事業 (11回開催:参加者540人) ○子ども110番活動の推進 (登録世帯数:485戸) ○PTA活動の支援 ○青少年相談員活動の支援 (7回開催:延べ参加者384人) ○放課後ふれあい教室の運営 (2校:延べ参加者514人) ○成人式の開催(新成人参加者136人) ○家庭教育アドバイザーによる合同家庭教育学級の開催支援 (5回開催:延べ参加者297人) ○学校・家庭教育アドバイザーによる家庭教育相談	【取組への課題】 ・子どもたちの社会性、自主性、協調性をはぐくむため、社会教育関係団体や地域の様々な教育力を活用しなければ各種事業を実施できない。各種事業への参加者が安全で安心して過ごすためには、大勢のスタッフが必要となる。 ・子ども110番登録者については、登録後の実態調査を実施したが、全ての現状が把握できていない。	H27 決算	1,618
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・今後も子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、ふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員などの青少年関係団体等と連携を図りながら事業を推進していく。 ・平成28年度から家庭教育アドバイザーを導入し、合同家庭教育学級による他校の先生や保護者との交流を実施し、今後も継続実施していく。	H29 予算	2,649
			H29 決算	2,453
③ 体験活動推進事業	自然体験や生活体験等のため、関係機関と連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○自然体験活動の推進「ドラム自然楽校」 (7回:延べ参加者319人) ○通学合宿の開催 (参加者27人)	【取組への課題】 ・子どもの成長に合わせて様々な体験ができるよう、地域社会や保護者に積極的に働きかける必要がある。そのため、地域や行政、学校、関係団体等が子どもや保護者が参加できる体験活動の機会を充実させるとともに、社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力・連携を得て体験活動を推進していく必要がある。	H27 決算	116
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・社会教育関係団体や地域の支援者の方々の理解・協力を得て、引き続き、ドラム自然楽校、通学合宿を実施していく。	H28 決算	115
			H29 予算	115
合計			H27 決算	1,995
			H28 決算	2,694
			H29 予算	2,764
			H29 決算	2,568

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		生涯学習資料の充実					
現状と課題		<p>・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。</p> <p>・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。</p> <p>・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。</p>					
施策の情報整理	目指す成果	図書資料や情報メディア等を活用して、町民は新しい知識・技術の習得や地域課題の解決などのため、主体的に学習を行っている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		図書室利用者数	16,096人 (H25)	16,456人	16,576人	16,696人	
	施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		3,590 千円
						3,582 千円	
	達成度の理由	貸出冊数は利用者に比例し増加し、インターネット利用者数も年々増加し、図書室利用者数は、年度目標値をクリア出来ている。一方では、遠方地区の児童の脚の問題や、図書室のスペースの問題など、依然として課題はあるものの、インターネットを活用した検索・予約システムの導入について準備を進めたことから、総合的には「目標を達成」と判断した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<p>・学校で取り組んでいる「朝の読書タイム」の効果で小中学生の貸出しが伸びてきている。</p> <p>・竜角寺台小や布鎌小の児童は、ふれあいプラザ図書室を利用するには移動の問題があるため、学校への団体貸出しを推進していくことや、インターネット検索や予約が出来るようにする等の利用促進を検討していく必要がある。</p> <p>・中学生から大学生の利用が少ないことから、その世代の図書の充実が必要である。</p> <p>・本の読み聞かせや、子ども映画会については、内容が固定化してきており、内容の見直しが必要となってきている。</p>					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<p>・レファレンスサービス(調べ物の手強い)の充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。</p> <p>・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、地域格差のある学校図書館への支援を積極的に行っていく。</p> <p>・成果指標である図書室利用者数については、平成31年度からの第5次総合計画策定時に目標設定を上げ、利用者数を増やすために先進地を参考としながら、取り組んでいく。</p>						
住民との協働や他課の事業との連携	子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性をはぐくみながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア(おはなし会・人形劇バレット)や映写ボランティアと連携し、おはなし会、人形劇や子ども映画会などの読書普及活動を展開した。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 図書室管理運営事業	生活関連本を中心に蔵書を充実させたほか、学校に調べ学習や朝読書の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を開催し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。 ○レファレンスを含む窓口サービス業務の充実 (年間開室日数:285日) ○蔵書整備業務(購入626冊/寄贈511冊) ○学校貸し出し2,732冊	【取組への課題】 年代別の利用状況を見ると、13歳から22歳の利用が圧倒的に少なく、これらの世代の読書活動を普及させる方が必要となっている。	H27 決算 3,621
			H28 決算 4,010
			H29 予算 3,590
			H29 決算 3,582
② 読書教育事業	図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演、子ども映画会を開催し、子どもたちが読書の楽しさに気づききっかけをつくり、読書体験を深めるようにした。 (延べ参加者409人) また、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催し、学校における読書環境の整備を支援した。	【取組への課題】 読書教育関連事業が固定化してきており、新たな読書体験活動を深めていく必要がある。	H27 決算 0
			H28 決算 0
			H29 予算 0
			H29 決算 0
合計			H27 決算 3,621
			H28 決算 4,010
			H29 予算 3,590
			H29 決算 3,582

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	スポーツ振興の充実					
現状と課題	スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題である。					
目指す成果	町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。					
成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
	スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数	7,422人 (H25)	7,550人 8,256人	7,600人 8,070人	7,650人	各種スポーツ大会・スポーツ教室の延べ参加者数
施策全体の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		14,349 千円 13,307 千円
達成度の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数については、目標値の106.1%であったことでスポーツ人口を増加させるという過年度からの課題はクリアできた。 ・さかえりバーサイドマラソンの参加人数が前年度比約20%の増加(H28年度実走者数2,293人、H29年度実走者数2,734人)となったが、これは昨年度のコース変更が好評だったことに加え、ゲストランナーに柏原竜二氏招いたことにより参加者の興味を引くことができたためと考えられる。 ・昨年度に引き続き実施した「スポーツによる地域活性化事業」については、健康ポイント付与の効果もあり、参加者は多かった。 ・以上の事から総合的に「目標を達成」できていると判断した。 					
設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設利用者に関しては、H28年度は62,938人に対しH29年度は73,572人で増加している。各施設とも昨年度に比べ利用件数・人数とも増加している。 【水緑:利用件数1,264件・16,443人/房総のむら:利用件数740件・17,631人/各体育館・校庭:利用件数2,471件・39,498人】 ・体育協会各専門部の人数が減少傾向にあり、新たな人材確保に努めなければならず、また専門部員の高齢化により脱退せざるを得ないことも人数減少の要因と考えられるため、各専門部の活動を積極的にPRすることで新たな部員の確保につなげ競技力の向上を図ることが必要と考える。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	スポーツ無関心層の方や普段から体を動かす機会が少ない方などへ、運動やスポーツへの関心度を高め運動を習慣化させ健康増進や介護予防への意識改革を図る。特に40代～60代の働く世代をターゲットとした事業を展開し体調管理など健康増進につなげることが必要である。					
住民との協働や他課の事業との連携	スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体・順天堂大学等の団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催することは従前通り継続します。また、スポーツによる地域活性化事業も引き続き継続し、ライフステージに応じた運動、スポーツ参加者へのきっかけづくりや場所の提供によりスポーツ実施者を増やすとともに健康長寿社会の形成を進めていきます。 恒例となっている、さかえりバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体の他、教育委員会関連団体やボランティアを多く活用しランナーの安全確保に努めると同時に参加者及び来場者へのおもてなしの向上につなげます。また、著名なゲストランナーを招き参加者の増加を図ります。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① スポーツ・レクリエーション交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ●さかえりスポーツフェスタ～誰もがオリンピックを目指して～の開催【1,788千円】 ・バレーボール教室(62名参加) ・ソフトボール教室(37名参加) ・卓球教室(40名参加) ・親子体操教室(34名参加) ※延べ173名参加、講師・スタッフ延べ64名参加 ●スポーツ推進委員が行う事業への支援 ・報酬【463千円】、郡スポーツ推進委員連絡協議会負担金【35千円】 軽スポーツ教室・体力調査会保険料等【68千円】 	【取組への課題】 補助金を活用したスポーツフェスタは引き続き実施することとするが、スポーツ推進委員活動については、事業のマンネリ化が見られるため参加者から飽きられないような工夫が必要である。	H27 決算 2,951
		【課題を踏まえ今後の対応】 補助金を活用しトップアスリートを招いてのスポーツフェスタは引き続き開催する。このほか、他団体(青少年相談員や健康づくり推進員)と連携しスポーツ・運動を通したスポーツコミュニティの醸成を図る。	H28 決算 1,558
			H29 予算 2,658
			H29 決算 2,354
② スポーツ競技力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生大相撲トーナメントの実施【10千円】(参加者41名) ・千賀ノ浦部屋相撲合宿時にふれあい相撲体験を実施【6千円】(参加者23名) ・町長杯ソフトバレーボール大会の実施(参加12チーム・61名) ・町長杯サッカー大会の実施(参加24チーム・300名) ・体育協会への活動支援【補助金1,731千円】 ・郡体育協会負担金【282千円】 ・郡市民体育大会出場選手協力依頼(選手出場250名) ・郡市民体育大会ユニフォーム購入【426千円】 ・郡市民体育大会ソフトボール競技・相撲競技開催【9千円】 	【取組への課題】 体育協会各専門部の人員が高齢化により衰退・減少方向にあることから、新たな人材を発掘しなければならぬ。	H27 決算 2,028
		【課題を踏まえ今後の対応】 体育協会各専門部の活動支援と活動のPRを積極的に行い、スポーツを通した地域連携を図りスポーツによる地域の活性化につなげる。	H28 決算 2,043
			H29 予算 2,507
			H29 決算 2,464
③ スポーツによる地域活性化推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病予防教室等の健康講演会の実施(計4回 延べ257名参加) ・軽スポーツ教室の実施(計5回 延べ177名参加) ・スリングヨガ教室の開催【451千円】(計3回 延べ90名参加) ・いきいき広場の実施(計5回 延べ154名参加) ・スポーツ健康手帳の作成【161千円】 ・血管年齢測定器の購入【249千円】 ・健康ポイント引替商品購入【554千円】 	【取組への課題】 スポーツ無関心層である40代～60代の働く世代の方を、いかにして運動・スポーツに興味を持たせ、健康増進の意識付けを向上させるかが課題である。	H27 決算 —
		【課題を踏まえ今後の対応】 スポーツ・運動に限らず、健康増進や介護予防のために教室等の参加者へのインセンティブを付与することで関心度を高め、運動の習慣化を図る。40代～60代の働く世代の方々への訴求を強め、参加を促す。	H28 決算 3,981
			H29 予算 1,621
			H29 決算 1,415
④ 生涯スポーツ環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ブルー一般開放委託【3,197千円】 ・町民ブルーシャワー等修繕【2,157千円】 ・ふれあい公園相撲場整備工事【195千円】 ・体育施設管理【1,525千円】 	【取組への課題】 幅広い世代の方々快適に利用できるよう各体育施設の定期的な巡回を実施するよう努める。	H27 決算 7,937
		【課題を踏まえ今後の対応】 体育施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に行う。また、スポーツ振興補助金を活用し、町民ブルーの修繕を行う。	H28 決算 11,128
			H29 予算 7,563
			H29 決算 7,074
合計			H27 決算 12,916
			H28 決算 18,710
			H29 予算 14,349
			H29 決算 13,307

学識経験者の意見（基本方針（2）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・地域教育向上事業について、家庭教育学級では、児童虐待や発達障害のお子さんを持ち悩んでいる方、発達障害のお子さんについて理解してもらいたいことやいじめ、基本的な生活習慣を身につけるための子育ての仕方などそうした内容でくださっていると思います。こういうことを親が学んで知識を増やしていくことで安心し、情緒も安定して子育てができるということもあるので、家庭教育学級で行っていただければと思います。予算の関係になると思いますが、各学校でそういった内容で実施できれば良いと思います。
- ・以前、各学校で講師を頼まれたことがあり、家庭教育学級が盛んだったと思いました。今は、あまりそういう話を聞かないので、その辺りが衰退しているように思います。子育ての段階での、各年代での育て方、保護者のとまどいというものがあると思うので、その辺りを含めて家庭教育学級の充実も必要なのではと思います。合同開催ですと、他の学校のエリアの人が距離的に遠くなることや知らない人が多くて行きにくいということもあると思うので、中央と各エリアで分けて実施していただければ良いと思います。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・小学校、中学校の本の貸出しが伸びてきていて素晴らしいことです。どの学校でも図書館司書の役割が非常に成果を出していると思います。読み聞かせボランティアも各学校で増えていると聞いています。今後、栄町として、インターネット検索や予約ができるようになると住民としてはありがたいと思います。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・誰もがオリンピックを目指してについて、東京オリンピックが開催されて栄町からオリンピックに出場する人が出たら良いと思います。アスリートを育てるための指導者を受けての育成について、予算が絡むことではありますが、そういう事業ができると良いと思います。
- ・町も高齢者人口が34%、35%に増えてきています。高齢者の方は、健康志向が強いのでスポーツをやれる環境が欲しいと思います。皆さん、朝晩ウォーキングなどされています。ウォーキングは、特に施設は必要ありませんが、その他に球技を行う施設などの要求があると思うので、旧北辺田小や旧酒直小の体育館を開放していただくと大変喜ばしいことではないかと思います。今、町民がスポーツを楽しむとなると学校開放に頼っている状態です。元気な高齢者の方に、スポーツを楽しめる場所、施設の提供というものも必要になってくると思います。
- ・体育指導委員のときは、予算がなく事業を計画しても実現しない部分がありました。事業を推進するためには、ある程度の予算が必要なものもあります。スポーツ推進員の方は、教室などの活動をされていますが、その辺りを考慮していただければ、活動も拡充ができるのではないかと思います。
- ・事業を工夫してくださっていることにお礼申し上げます。リバーサイドマラソンの参加者が441名と増えています。コースも変えて走りやすいと参加した方から聞いています。体育館の利用者施設利用者も10,634人ということで増えていますので、事業をととても工夫されていると思います。また、高齢者も増えているため、血管年齢の測定

- 器の購入，スリングヨガなど工夫されているので大変ありがたいと思います。
- ・ 町民プールの修繕については行いましたか。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・家庭教育学級については、各学校輪番制で行っています。前回、ふれあいプラザさかえで実施していた時は、携帯のインターネットセキュリティーの取扱いについて行いました。そのような課題や目標を持ち取り組みをしているところです。今後も、子育てに関する課題や目標を踏まえた内容で実施していきたいと思えます。
- ・家庭教育学級が合同になった経緯の1つとしまして、参加する保護者が少ないということもありますが、異学年の子どもたち、違う学校であっても家庭教育学級を通じ、お母さん方の情報交換ができるということで喜んでいただいているという声を聞いております。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・図書室のインターネット検索や予約が今年の7月にできるようになりました。その他、学校の図書館司書さんと連携を図り必要な図書を揃え、住民の皆さまの要望に応えていきたいと思えます。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・町民プールの大規模改修については、平成30年5月に日本スポーツ振興センター所管のスポーツ振興くじ助成金の採択を受け、平成30年10月に大規模改修工事の契約を締結しました。平成30年11月から工事を開始し、平成31年3月中に完成する予定です。

基本方針 (3)

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施策名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 7
- ・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 8
- ・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 9

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 0

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・ P 3 1



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	文化芸術発信拠点の充実					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 各サークル等、文化芸術団体がより活発に活動できるよう、活動の啓発や成果発表の支援が必要である。 社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れられる機会が望まれている。 					
目指す成果	文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。					
成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
	ふれあいプラザさかえの利用人数	199,632人 (H25)	211,700人	215,900人	220,200人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数
施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	94,416 千円 57,098 千円
達成度の理由	H29年度のふれあいプラザさかえの利用人数の減少については、悠遊亭の工事により6ヶ月使用できなかった事、自主事業が減った事などの要因があるが、文化芸術に触れることなどの機会を提供していることから、総合的に「目標をほぼ達成」と判断した。					
設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいセンターの貸し部屋は利用率が前年度の75.9%から73.6%と2.3%下降した。 施設の老朽化に伴い、修繕箇所が増えてきているが、要修繕箇所が多く、応急的に使用できるようにしている部分が多い。 平成29年度に策定した施設の個別施設計画(長寿命化の実施計画)に基づき計画的に施設改修を実施していく。 サークル団体は増加しているが、高齢化が進み、活動は鈍化傾向。新たな人材確保が必要。 					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算内で施設管理が出来るように努めて行きたいが、経年経過による消耗のために突発的な消耗品が発生している。 各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持、及び文化ホールでの文化芸術事業の選択が課題となる。 					
住民との協働や他課の事業との連携	ふれあいプラザさかえ施設管理において、住民団体やふれあいプラザさかえ利用サークルが敷地内の花壇整備や除草・剪定を実施した。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① ふれあいプラザさかえ施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいプラザさかえを年間291日開館し、管理・運営を実施した。 ○施設総合管理や設備保守点検、特殊建築物定期報告調査等を委託 ○光熱水費(電気・ガス・上下水道)の支払い ○窓口業務の日々雇用職員との連携、調整 ○平成28年4月1日～平成31年3月31日の3年間、文化ホール業務委託(舞台・音響・照明のスポット委託) 	【取組への課題】 ・限られた予算内で施設管理が出来るように努めて行きたいが、経年経過による消耗のために突発的な消耗品が発生したりしている。年度途中に電気事業者を変更し、利用料が安くなったが、それでも光熱水費が不足し、補正予算で対応している。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・施設利用者にとって、安全で安心な施設の維持・管理及び施設運営を努めて行く。 ・支出の半数を占める光熱水費については、節電や節水を利用者へ呼びかけるようにし、支出を軽減して行く。	H27 決算	50,702
			H28 決算	54,738
			H29 予算	55,096
			H29 決算	54,080
② ふれあいプラザ施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> ○次のとおり施設や設備の修繕を実施した。 ○悠遊亭空調設備(冷温水配管枝管)の修繕 ○文化ホール音響(パワーアンプ、カセットデッキ)の修繕 ○ふれあいセンター(放送設備、揚水ポンプモーター、冷却塔、冷温水ポンプ、冷温水発生機、誘導灯、男子トイレ洗面所排水栓)の修繕 ○ふれあいセンター非常用発電機施設改修工事 ○電気陶芸窯の修繕 ○文化財作業場空調機設置工事 	【取組への課題】 ・経年経過による設備の故障が多く発生しており、応急的な対応に留まり、施設の不具合の全ての修繕が出来なかった。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。 ・平成29年度に計画的な修繕計画を策定し、改修を実施して行く。	H27 決算	2,201
			H28 決算	1,968
			H29 予算	39,320
			H29 決算	3,018
③ 文化芸術振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ○地方創生拠点整備交付金を活用して、日本の国技「相撲」体験による地域経済活性化事業を実施した。 ○悠遊亭改修工事 ○悠遊亭改修工事設計監理業務委託、集会スペースの改修、ステージ設備の更新、浴場機器の更新、浴室・脱衣所の改修、多目的トイレ改修工事 	【取組への課題】(2・1・6企画政策課予算) ・外国人観光客が日本を体験できる拠点施設として、ふれあいプラザさかえ悠遊亭を整備した。 【課題を踏まえ今後の対応】(2・1・6企画政策課決算) 整備した悠遊亭は、相撲関連イベントの際に活用できるよう維持管理していく。	H29 予算	33,264
			H29 決算	31,390
			H27 決算	ふれプラ基金
			H28 決算	ふれプラ基金
④ 文化芸術団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○貸館事業による文化事業を展開した。 ○自主文化事業を実施した。 ○NHK全国放送公開番組「みんなDEどもく」(1回、1,019名) ○米村でんじろう「おもしろサイエンスショー」(2回、1,229名) ○ジャズコンサート(延べ参加者550) ○ホールピアノ一般開放(8日、延べ参加者33組) ○映画会(1回、延べ参加者105名) ○地元芸術家絵画展(6日、延べ入場者115名) 	【取組への課題】 ・町民がどのような文化芸術に興味があるのか、把握出来なかった。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・高校、関係団体等の協力を得てのコンサートや映画会を開催していく。 ・文化芸術振興事業として、ふれあいプラザさかえ事業基金を活用し、企画・実施していく。	H27 決算	9
			H28 決算	9
			H29 予算	0
			H29 決算	0
合計			H27 決算	52,912
			H28 決算	56,715
			H29 予算	94,416
			H29 決算	57,098

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		歴史資料の公開・活用					
現状と課題		町史編さんについては刊行事業が凍結されており、緊急的課題に係る調査を若干進めている状況である。このため当面は、これまでの調査成果を簡便平易な方法で公表して普及を図る。また、「公文書等の管理に関する法律」施行に係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。					
施策の情報整理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		歴史公文書の整理保存作業	8% (H25)	20% (111/554箱)	25% (139/554箱)	30%	現在保有する歴史公文書の整理保存作業の進捗割合
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		197 千円 127 千円
	達成度の理由	歴史公文書の整理保存について、資料全体から見た整理保存作業の進捗状況はスツーカー箱554箱中、139箱分の作業が完了し目標値の25%に達していることから数値上は目標は達成しているが、下記のような課題があり総合的には「目標をほぼ達成」とした。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・栄町史刊行に係る調査データを利活用して、町史編さん委員会の協力により広報誌に記事を毎月掲載することができ、栄町の歴史・文化遺産について紹介できた。 ・町史資料の公開活用について、町史刊行計画の凍結から10数年経過していること、度重なる整理保管・作業場所の移転などに伴い未整備となっていることから、早期に公開活用ができる状態に進めていく必要がある。 ・資料整理作業に関わるスタッフ等の人材確保と計画的な整理保存作業が必要である。 					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	刊行計画の凍結状況の長期化に伴い、栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果の還元である『栄町史』の刊行について進捗させる必要がある。また、「公文書等の管理に関する法律」等の改正などに係る歴史公文書等の収集・整理・公開体制の整備について進捗させることで、町民等による地域史料の閲覧・利用について利便性を高める。					
住民との協働や他課の事業との連携	栄町古文書学習会の会員に『栄町史料編』(近世)への掲載予定史料に係る解読筆耕作業を継続的にお願いしている。このことは、会員の生涯学習活動を通して町民に情報が発信され、郷土の歴史の普及となっている。また、栄町文化財サポーター登録者に新たに発見された地域史料(襖などの下張文書)の整理保存作業を継続的に実施していただいている。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 町史編さん事業	これまでの調査成果を町史編さん委員会の協力を得て毎月広報誌を通して公表した。また、「栄町歴史講座」を開催して「水辺をめぐる布織のあゆみ」をテーマとして実施し、特に民俗部会専門委員による公開講演会「布織惣社水神社の歴史と民俗」で好評を得た。	【取組への課題】 広報誌への掲載について、スペースが限られていることから原稿量の調整が難しい。	H27 決算	102
			H28 決算	102
		【課題を踏まえ今後の対応】 時宜を得たテーマや歴史講座の参加者、文化財サポーター登録者などから興味のあるテーマを聞き取り、記事に反映させる。	H29 予算	176
			H29 決算	106
② 記録史料の保存・公開事業	地域史料(古文書等)の整理保存作業を文化財サポーターとの協働(年間44回、のべ248名)で実施した。歴史公文書の整理保存作業は議会関係(布織村役場分)について進めることができた。	【取組への課題】 地域史料の整理保存は、協働作業で着実に進捗しているが、歴史公文書の整理保存作業は、作業員、時間の確保に苦慮している。	H27 決算	30
			H28 決算	21
		【課題を踏まえ今後の対応】 歴史公文書の整理保存作業日を固定化して作業員・作業時間を確保し、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史公文書のライフサイクルを確立させる。また、整理保管・作業場所の移転などに伴い歴史公文書の配架が未整備となっていることから集約を進めたい。	H29 予算	21
			H29 決算	21
合計			H27 決算	132
			H28 決算	123
			H29 予算	197
			H29 決算	127

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名		文化財保護の拡充					
現状と課題		・岩屋古墳周辺の指定地に係る公有化は膠着化して動きがない。しかしながら国指定史跡候補地内における未指定地の追加指定を進捗させて早期に保全、保護について確立させる必要がある。また、岩屋古墳の基礎的調査に係る報告書の刊行によるデータを活用し、史跡整備計画に反映させる必要がある。 ・町内外へ国史跡などの文化財の活用、普及や環境整備を図るためには栄町文化財サポーターとの協力が不可欠なことから登録者を増加させる必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	文化財が持っている重要性への理解が深まり、文化財の保護への意識が高まっている。また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化が図られ、その保全・活用のための整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳等の調査が実施され、その成果が活用されている。					
	成果指標及び実績	指標	現状値	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (教育振興基本計画目標値)	目標数値の説明
		発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター数	26人 (H26)	36人	41人	46人	登録人数
	施策全体の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		5,841 千円 5,016 千円	
		達成度の理由	文化財サポーター登録者を中心とした養成講座(栄町歴史講座3/6回)を開催して研修を実施し関心を深め、新規登録者2名が加入したが、高齢化などの関係から2名が脱退した。数値目標は達成できなかったが、研修会を健康ウォーキングの会と協働(3回)できたことや新たに自主研修グループの結成などがあり、充実した活動ができていたことから総合的には「目標をほぼ達成」と判断した。				
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	・町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事について、文化財審議会等の指導をいただき完了することができた。 ・国庫補助事業による考古資料の整理保存事業(あじき台遺跡、下原遺跡)について確実に進捗させることができた。 ・サポーターとの協働による、史跡周辺の環境整備について定期的(月例)作業及び、主要イベントに係る文化財ガイドの確立が図れた。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・財政的な問題で、史跡の「整備活用計画」が当面作成できないため、戦略的な活用ができていない。 ・岩屋古墳の学術調査データの公表から日本最大の方墳と確認されたことや浅間山古墳が房総最後の前方後円墳として注目され見学者が増加していることから、頻繁にガイドなどの対応が必要となっている。 ・岩屋古墳エリア及び、浅間山古墳エリアに係る史跡用地の環境整備面積の増大による除草作業が課題となっている。					
住民との協働や他課の事業との連携	文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等や観光客等の来町者、見学者の案内・説明、さらに史跡等を保全するための環境整備・清掃作業などの協働を進捗させる。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名	平成29年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費
① 文化財の調査・保護事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整を行い確実に処理した。町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事について、文化財審議会等の指導をいただき完了することができた。国庫補助事業による考古資料の整理保存事業(あじき台遺跡、下原遺跡)について確実に進捗させることができた。また、発掘調査の成果や普及活動等を行う栄町文化財サポーター登録者の活動支援のため養成講座(栄町歴史講座:3回のべ51名参加)などを開催した。	【取組への課題】 国庫補助事業による考古資料の整理保存事業(下原遺跡など)について、専門的知識を有する職員を確保して計画的に進捗させる。また、3カ年計画となる町指定文化財「布鎌惣社水神社本殿」の修理工事に係る調査報告書の作成業務について、工事関係者と連携して計画的に進捗させる。	H27 決算 5,152 H28 決算 2,668
		【課題を踏まえ今後の対応】 国庫補助事業の内容(報告書作成業務)を的確に把握し、執行管理を着実に推進させる。また、町指定文化財調査報告書の作成業務については、内容の高度化に対応して調査員と連携をとり計画的に進捗させる。	H29 予算 5,242 H29 決算 4,621
		【取組への課題】 文化財ガイドの対応について体制の整備とガイドマニュアルの必要性が生じている。また、浅間山古墳本体の環境整備作業を実施することが課題となっている。	H27 決算 80 H28 決算 116
		【課題を踏まえ今後の対応】 房総のむら、栄町観光協会(コスプレの館)との連携を進めることで文化財ガイドの充実を図りたい。浅間山古墳の重要性を普及させることで、地元自治会や栄町文化財サポーターなどの理解を得て環境整備作業の進捗を図りたい。	H29 予算 599 H29 決算 395
合計			H27 決算 5,232 H28 決算 2,784 H29 予算 5,841 H29 決算 5,016

学識経験者の意見（基本方針（3）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・今までどおりに取り組みをしていただけると良いと思います。よろしくお願いします。ふれあいプラザさかえがなくなると大変なことです。とにかく残していただければと思います。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・文化財を担当する職員が少ないと思います。この後どのようにしていくのか心配なところ。栄町は、歴史の古いところです。そういう文化財、古文書をこれからどのように守っていくのかということが課題になると思います。それを活用していく方法も考えていかなければいけないと思います。タイジョウ醤油さんの醤油作りの工場については、保存できるとよかったと思います。壊してしまうと復元できないので残念な気がしました。今は、大鷲神社前の時計店の屋根の瓦や木のシャッターなど個人の資産も町の資産として保存して、そういったものを活用していけたら、町外から人を呼べる材料になるのではと思います。古い建築物の保存は、予算的なものが相当大変になると思います。また、町の中をウォーキングしている時に見た麻生の貝塚など、例えば、そういうものに興味をもっているボランティアさんを募って、専門家に指導を受けながら発掘できれば利用価値があるのではないかと思います。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・平成28年度の点検・評価報告書に、平成29年度に岩屋古墳の日本語のパンフレットを作成すると書かれていましたがどうなりましたか。
- ・文化財サポーターさんの活動には頭が下がります。龍角寺では休日など参拝者に説明をしているサポーターさんもいます。古墳周りの保全、整備、ボランティアの方も本当に一生懸命されていて、サポーターさんも、もっと増えたら皆さんの作業の負担も軽減されると思います。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ふれあいプラザさかえの存続については、大丈夫だと思います。昨年、今年と工事を行い、ふれあいプラザさかえの施設環境を整えております。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・文化財担当の職員が現在、文化財センターへ派遣されております。文化財担当の専門職が不在ですので、職員の配置などについては、今後、考えていきたいと思っております。
- ・歴史的な建物の保存については、個人の所有物を町で移転、保存することは費用面など厳しいことから、町では、歴史的な建物をどのようなかたちで残していくか、例えば、建物の図面を作成することなど現在検討しております。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・平成28年度の点検・評価報告書の文化財の調査・保護事業の部分で、岩屋古墳を活用するため、調査報告書の作成をすることを回答させていただきました。予定通り、平成29年3月に岩屋古墳一町内遺跡（岩屋古墳第1次から3次）発掘調査一を発刊し、関係期間へ配布しました。なお、調査報告書は、ふれあいプラザさかえ2階図書室で閲覧することができます。

5 【本町教育行政が取組む方向について】

教育長より

町教育委員会が掲げている「栄町教育振興基本計画」は、教育基本法の改正に伴い平成27年度から平成30年度にわたった計画となっております。昨年度分は計画の後半期間でありました。そうした中、学識経験豊富なお二方から、各課事務事業に対する、ご指導、ご指摘、ご意見等をいただきました。お二方には、概ね肯定的な評価をいただいたものと感じた次第です。

今回は、平成29年度の事務事業のものでしたが、町内の学校に勤務していた身としまして、また、平成30年度においては「栄町教育振興基本計画」の最終年度にあたる年度としまして、一つひとつのご意見が、我が身に迫ってくるものがありました。その上で、最終年度として、目標指標に届くような具現化への手立てとなるとともに、次期「栄町教育振興基本計画」の策定を練り上げていく覚悟を決めたところです。教育は百年の大計だと入って逃げるものでもありませんが、学識経験豊富なお二人によって、教育行政を俯瞰していただくことは、次への励みになるとともに、見落としていたものも見えてきたように感じる次第であります。

また、平成29年度の半ばから、教員の働き方改革についての数々の指針の嵐が吹き始め、町教育行政にとっても重大事として捉えていかねばならないものとなりました。そのため、町単独事業として「教員アシスタント職員活用事業」が今年度よりスタートしました。次年度からの新計画策定の柱となることは必至でありますので、取組みを見守って参りたいと考えます。

教育には「臨界期」という言葉があります。その時期を過ぎてしまうと、身につきにくいということです。逆に言えば、その時期でないと身につきにくいものと言えます。例えば、絶対音感は幼少期、自転車に乗れるようになるのも幼少期、泳げるようになるのも幼少期と言われます。自転車乗りや水泳は、大人になると恐怖心が先にたってしまうということのようです。町の教育行政に携わる身としましては、義務教育からつながる生涯学習の中で、時機を捉えた事務事業を提供すべく努めて参りたい所存です。

最後に、学識経験豊富なお二方のご提言をいただきましたことに感謝申し上げ、町議会へ報告いたします。

